

## ミスミグループ本社 2019年3月期 第3四半期 連結業績

～ 売上高は第3四半期として過去最高を更新、  
持続成長に向けた投資は継続～

株式会社ミスミグループ本社は本日、2019年3月期 第3四半期累計期間（2018年4月1日～2018年12月31日）の連結業績を発表しました。主な業績数値は以下の通りです。

(百万円)	2018年3月期 第3四半期	2019年3月期 第3四半期	増減率
売上高	231,058	<b>249,719</b>	+8.1%
のれん等償却前 営業利益 ※	28,647	<b>23,156</b>	-19.2%
営業利益	27,171	<b>22,694</b>	-16.5%
純利益	20,104	<b>16,216</b>	-19.3%
1株当たり純利益	71.62円	<b>57.23円</b>	

※ Dayton Lamina Corporation 買収にかかるのれん・その他無形固定資産の償却前営業利益

### <2019年3月期第3四半期累計期間の連結業績ハイライト>

#### 1. 各地域で貿易摩擦による製造業の景気減速が見られる中、連結売上高はVONA事業、FA事業の成長により対前年同期比 8.1%の増収を確保、営業利益は事業基盤強化に不可欠な投資の継続により減益

- 当第3四半期連結累計期間における世界経済および日本経済は、貿易摩擦継続への懸念が強まったことから、製造業の設備投資に一層の慎重さが見られるなど、景気は減速傾向にあります。中国、アジアおよびアメリカにおいても貿易摩擦の影響などにより輸出入関連が悪化し、また、欧州では自動車関連の不振などにより、製造業の景況は各地域とも減速が見られます。また、日本においても海外需要や設備投資の鈍化を受けて景況は弱含みとなり、生産用機械、自動車関連分野で不透明感が増しています。
- こうした環境においても当社グループの戦略は変わることなく、メーカー事業と流通事業を併せ持つユニークな業態を活かしながら、これを支える事業基盤をグローバルで進化させ、顧客の非効率を解消することで世界の製造業に貢献しています。今期においてもITを核とした新たなものづくりに応えるため、各国の現地ニーズに即時対応できる地域別ECサイト構築を加速するなど、競争力を強化しました。また、最適調達を目的とした現地生産・現地調達を推進するとともに、国内外で物流拠点を拡張するなど、景況が減速する中で一部の投資には慎重になりつつも、グローバル確実短納期体制の強化に努めました。
- こうしたビジネスモデルの進化により顧客に対して高い利便性を提供すると共に、VONA事業の国際展開加速による売上成長もけん引し、対前年を上回る連結売上高を確保しました。

- こうした結果、連結売上高は 2,497 億円、前年同期比 8.1%（現地通貨ベース+8.3%）増収となり、第 3 四半期決算としては、過去最高の売上高を更新しました。利益面につきましては、成長加速に向けた投資などにより、営業利益は 226 億円（前年同期比 -16.5%）、経常利益は 226 億円（前年同期比 -15.7%）、親会社株主に帰属する当期純利益は 162 億円（前年同期比 -19.3%）となり、第 3 四半期決算として過去最高額であった前年同期に比べ減益となりました。

## 2. VONA 事業は国際展開拡大、FA 事業は自動化需要を捉え成長を継続

- 2019 年 3 月期第 3 四半期累計期間のセグメント別売上高は、以下の通りとなりました。

	売上高（百万円）		増減率	
	2018 年 3 月期 第 3 四半期	2019 年 3 月期 第 3 四半期	円ベース	現地通貨 ベース
FA 事業	77,789	<b>82,319</b>	+5.8%	+6.0%
金型部品事業	57,758	<b>57,758</b>	-0.0%	+0.7%
VONA 事業	95,509	<b>109,642</b>	+14.8%	+15.0%
合計	231,058	<b>249,719</b>	+8.1%	+8.3%

- FA 事業は、自動化需要を捉え、グローバルで QCT（高品質(Quality)、低コスト(Cost)、確実短納期(Time))を強化することにより、前年同期比 5.8%の増収となりました。
- 金型部品事業は、アジアにおける販売活動が好調だったものの、日米の自動車関連業界の需要減などにより、前年同期比でほぼ横ばいとなりました。
- VONA 事業は、品揃えの強化などにより国内の成長が持続したことに加え、アジアの展開拡大などが寄与し、前年同期比 14.8%の増収となりました。

## 3. 中国の成長鈍化が継続したものの、アジア、ヨーロッパが成長をけん引

- 2019 年 3 月期第 3 四半期累計期間の地域別売上高は、以下の通りとなりました。

	売上高（百万円）		増減率	
	2018 年 3 月期 第 3 四半期	2019 年 3 月期 第 3 四半期	円ベース	現地通貨 ベース
日本	121,870	<b>130,939</b>	+7.4%	—
海外	109,188	<b>118,780</b>	+8.8%	+9.3%
中国	43,070	<b>44,718</b>	+3.8%	+4.5%
アジア	31,153	<b>36,670</b>	+17.7%	+18.4%
アメリカ	19,878	<b>20,442</b>	+2.8%	+3.3%
ヨーロッパ	11,305	<b>12,773</b>	+13.0%	+12.5%
その他	3,781	<b>4,174</b>	+10.4%	+10.8%

- 日本では、自動化需要の取り込みや VONA 事業の販売拡大などに努めた結果、前年同期比 7.4%の増収となりました。
- 海外では、アジアにおける FA 事業、VONA 事業の拡大などにより、前年同期比 8.8%の増収となりました。

#### 4. 2019年3月期連結業績予想および期末配当予想を下方修正

- 2019年3月期の通期連結業績予想については、今後の市場環境や需要動向等を考慮し、2018年10月29日公表の業績予想から以下の通り下方修正いたします。

2019年3月期 連結業績予想（2018年4月1日～2019年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	純利益	1株当たり 純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回予想（A）	343,000	35,000	35,200	25,700	90.69
今回予想（B）	335,200	32,800	32,800	23,500	82.92
増減（B-A）	-7,800	-2,200	-2,400	-2,200	—
増減率（%）	-2.3%	-6.3%	-6.8%	-8.6%	—
前期実績	312,969	34,848	34,679	25,601	91.01

- 当社は、持続的成長と企業価値向上を実現するための経営基盤拡充、財務体質の強化、資本効率の向上などを総合的に勘案し、株主還元方針を定めております。
- 配当に関しては、配当性向25%を基準に決定しておりますため、上記の業績予想修正により、2019年3月期期末配当予想を1株当たり10円52銭（前年比0円56銭減）とさせていただきます。
- その結果、年間の合計配当金については、第2四半期末実績の10円21銭（前年比1円31銭減）と合わせ、20円73銭の見込みとなります。

	年間配当金		
	第2四半期末	期末	合計
前回予想	—	12円46銭	22円67銭
配当性向	—	25.0%	25.0%
今回修正予想	—	10円52銭	20円73銭
配当性向	—	25.0%	25.0%
当期実績	10円21銭	—	—
前期実績	11円52銭	11円08銭	22円60銭
配当性向	25.0%	25.0%	25.0%

#### 【業績予想に関する留意事項】

この資料に掲載されている2019年3月期の見通し及び将来に関する記述部分につきましては、国内及び諸外国の経済状況、各種通貨の為替レートの変動、業績に影響を与えるその他の要因等、現時点で入手可能な情報をもとに、当社グループが合理的であると判断した一定の前提に基づいておりますが、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの将来に関する記述のみに全面的に依拠して投資判断を下すことは控えるようお願い致します。実際の業績は、様々な要素により、これら業績予想とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には当社グループを取り巻く経済情勢、市場の動向、為替レートなどが含まれます。

2019年3月期 第3四半期の連結業績の詳細は、決算短信をご参照ください。

この件に関するお問い合わせ  
株式会社ミスミグループ本社  
コーポレート・リレーション室 IR担当  
Tel : 03-5805-7037 Fax : 03-5805-7014  
mail : cc@misumi.co.jp